

タイの看護学生に奨学金

倉敷の永瀬さんの私的基金の利子で

旧日本陸軍通訳で英語塾経営の永瀬隆さん(七六)倉敷市大島IIが、タイ国立ラ

チャプリー看護学院大学(生徒七百人)の新入生三人に、一人年額一万七千円(日本円で約七万円)の奨学金を初めて贈り、このほど帰国した。

奨学金は彼女らが卒業するまで毎年贈られ、また、

来年度からも新入生二、三人ずつに贈り続ける予定だ。

奨学金は、連合国軍捕虜や現地人を酷使して作った泰緬(たいめん)鉄道に關係した永瀬さんが戦争責任をわびる試みの一つで、七年前にバンコク銀行に預けたクワイ河平和基金(七百万円、目標額一千万

円)の利息から出した。同基金は、永瀬さんが講演料、印税、ラジオ出演料や小遣いを積み立てて、私的に設けていた。

授与式は泰緬鉄道の建設基地となった同国カンチャナプリー県の県庁横・公衆衛生会館であり、ナタ・シリホック知事立ち会いのもと、同校に入学したばかり

のハタイカン・キューパイ
ブンさんら、十七歳の女生徒に永瀬さんが小切手を手渡した。